

## シホテアリンスキー国立自然保護区

- 1 設立年 1935 年
- 2 面積 401,600ha
- 3 経緯等 当初は、クロテンの保護区として設置された保護区で、200 万 ha を要する広大な保護区であったが、1951 年から 1953 年の間に、スターリンによって 18 回に渡り面積を削減され、10 万 ha まで縮小されたが、スターリン批判以降の再拡張により、現在は 40 万 ha まで回復し、さらに 6,000ha の拡張を申請している。ソ連崩壊後の沿海地域の産業衰退の中で密猟が横行しており、保護区の主要業務は密猟取締となっている。  
なお、ロシアの保護地域には、国立自然保護区、国立公園、国立動物保護区等があり国立自然保護区が最も水準の高い管理をしている。
- 4 体制 定員は 90 名(71 名) ( )内は実人数  
内訳は、自然保護官 44 名(27 名)、学術担当 17 名(15 名)、  
管理部門等 29 名(29 名)
- 5 業務 密猟監視、森林火災の防止、学術研究、教育・普及活動  
(営林署と相互補完)
- 6 特徴 保護区の 95%が森林で、モンゴリナラやモミ属、トウヒ属、カラマツ属等主体とする汎針広混交林に、アムールトラ、アムールヒョウ、ツキノワグマなどの本来、亜熱帯系の大型哺乳類と、ヒグマやトナカイなどの北方系の大型哺乳類が入り混じって生息しているのが大きな特徴。  
2001 年にユネスコに登録された世界自然遺産「中部シホテアリン」は、シホテアリンスキー国立自然保護区(401,600ha)を核として、海域を含む 67,660ha の緩衝地域とゴラリー国立動物保護区(1,019,340ha)から構成される。指定理由は、アムールトラ、シマフクロウ、コウライアイサなどの多数の IUCN 絶滅危惧種の存在。
- 7 その他 今回は、沿岸地域を中心に視察したが、最も強い印象は優占するモンゴリナラの樹齢が比較的若い(100 年生以下)こと、火災が多発する結果として、シラカバが多数混交していること、火災等の攪乱を受けていない林分においては、チョウセンゴヨウが混交していることなど。また、寒冷地ではあるが、哺乳類の生息種数が多く、今回もオオカミ、シカ類、イノシシ類、タヌキ等の足跡を確認した。